

中津の医学の歴史を楽しく学ぼう！

～村上医家史料館の来館者サービスについて～

1. 背景

前野良沢・福澤諭吉のほか多くの先哲を輩出した中津には、江戸時代からの医学と蘭学の膨大な史料が残されています。現在、中津藩の藩医であった村上家と大江家の旧宅はそれぞれが村上医家史料館と大江医家史料館という二つの医家史料館となり、中津の医学の歴史を伝えています。

いずれも貴重な史料を展示した史料館であり、江戸時代の建築物は中津城下町観光にとって欠くことのできないものとなっています。

しかしながら、「医学」の展示は見学者に「難しい」という印象を与えており、その歴史的価値をいかにわかりやすく伝えるかが課題であり、よりよい来館者サービスを検討しているところです。

2. 来館者サービス

①紙芝居の作成

中津市では、毎年市内の全小学6年生を対象に「まちなみ歴史探検」を開催しています（総合政策課まちづくり推進係）。村上医家史料館もそのコースの一つとして子供たちが来館します。今後は、今回製作した紙芝居「村上医家のおはなし」を使って、子供たちにわかりやすく解説します。

内容：九州初期の人体解剖を行った村上玄水さん（7代目）と、大分初の新聞「田舎新聞」をつくり、玖珠郡長として深耶馬溪の道路開鑿に尽力した村上田長さん（9代目）の紹介。全21枚。

②薬袋のプレゼント

昭和40年代頃までは、病院でもらう粉薬は正方形の紙を折りたたんだものに入っていました。お医者さんごっこをする子供にとっては、「薬袋を折れること」は憧れでもありました。しかし現在薬局でもらう粉薬は、一包ずつ袋やカプセルに入っており、40代の人では折りたたんだ薬袋を知らない人が多いようです。

今回、正方形の紙に、折りたたみの線を印刷したものの作成し、パンフレット

にはさんで来館者にプレゼントすることとしました。受け取ったお客さんが、「これは何？」と聞いて下さることで、館務員との間に会話が生まれることを期待するものです。

デザインは「村上医家史料館のイラスト」「村上氏家伝薬『磨積圓（ましゃくえん）』」の文字とイラストの3種類です。

「磨積圓」は子供用の胃腸薬で、3代目玄水さん（延宝元年1673～享保14年1729）が創薬し、江戸・明治・大正・昭和と家伝薬として受け継がれたものです。展示室にある「磨積圓」の薬袋や江戸時代の薬箱等をみながら、話はずみ、村上医家史料館を訪れた思い出が一つでも増えることとなればと思っています。

*上記サービスは7月9日（土）から開始します。

*今後は、大江医家史料館での来館者サービスにも取り組んでいきます。

3. 村上医家史料館とは

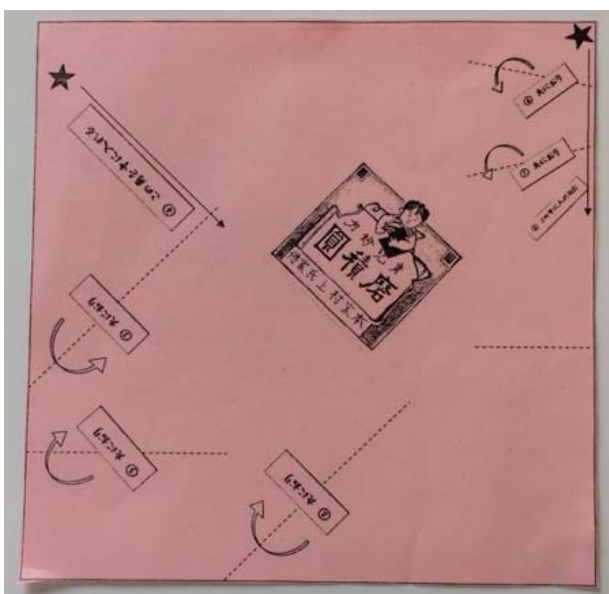
①概略

村上医家は、初代が寛永17年（1640）諸町に医院を開業以来、現在に至るまで医家として継続してきました。7代の村上玄水が行った九州初期の人体解剖（1819）の資料のほか、数千点におよぶ医学関係や村上家関係の資料を収蔵・展示しています。資料館の建物は文政9（1826）年に建築、昭和32年まで病院として開業していたもので、昭和56年4月14日、「村上玄水旧宅」として中津市指定史跡に指定されています。平成8年には中津市歴史民俗資料館分館 村上医家史料館となりました。

②見どころ

中津城下町に現存する数少ない江戸時代の建物で、建築物として見応えがあります。小笠原家、奥平家に仕えた藩医であり、江戸時代から近代までの医業の資料が充実しています。また、書画や茶器など、美しい美術品も所蔵しています。昭和32年まで開業していた昔懐かしい薬局がそのまま残っています。

紙芝居
「村上医家のおはなし」



この状態で来館者にさしあげます。



三種類の薬袋完成品